

派遣報告書

山中 萌衣

大会名:令和元年度国民体育大会 第39会九州ブロック大会

日時:令和元年8月24日(土), 25日(日)

場所:唐津工業高校, 鎮西スポーツセンター

○担当試合

24日(日)

成年女子 長崎県対沖縄県

CC:佐田明美(A 級, 大分県), U1:西村かおり(A 級, 熊本県), U2:山中萌衣

《PGC の内容》

- ・ベーシックなメカ・ガイドライン・IOT の確認
- ・処置ミスゼロのためのコミュニケーションの場面
- ・チームの特徴やキープレイヤーについての共有

《ゲーム後の MTG》 関口 久視氏(T 級 IR)

- ・スクリーンプレイの見方
 - ファウルであったかどうかではなく, オフェンスのムービングだけでなくディフェンスがスクリーナーをつかんでいないかということも把握できていたか。
 - スクリーンの表と裏で役割分担ができていたか。
- ・FT やスローインの際, ボールを渡すときの間合い。
 - もう一度, ベンチやプレイヤーを確認する。
- ・リードのローテーションするチャンス
 - ボールサイド2は徹底。
 - リバウンドがLの逆サイドにはねたとき, オフェンスがコントロールしそうなときはローテーションする。コントロールしたときにはローテーション完成させる。

25日(日)

少年女子 長崎県対福岡県

CC:西村かおり(A 級, 熊本県), U1:小川隆三(A 級, 宮崎県), U2:山中萌衣

《PGC の内容》

- ・ベーシックなメカ・ガイドライン・IOT の確認
- ・処置ミスゼロのためのコミュニケーションの場面

《ゲーム後のMTG》大城 由華氏

映像を見ながら、誰のプライマリだったかという確認をした。

何本か自分がプライマリだったというプレイがあったので、そのときの自分の位置や体の向きを見て修正していきたい。

○全体を通して

今大会から少年女子がU-16になったことで、昨年までと比べて未熟な部分があったり、成年女子と比べてもレベルの差があったり、影響の程度などの見極めの難しさがありました。しかし、その中で確認できたものはコールすること、明らかなものは落とさないことなど、自分のプライマリで起きたことに対して判定していくことを意識して臨みました。課題もありますが、自信につながったこともある大会でした。

処置ミスゼロを のために TO も気にしながらゲームを進めていましたが、得点の間違ひがあり試合を中断する時間が長くなってしまいました。自分たちの中で確認ができていて、TO とのコミュニケーションが薄くなってしまったのが原因だったので、もっと気にして進めるべきだったなというのが大きな反省です。

来年の国体に向けてまだまだ課題がありますが、今よりもレベルアップして臨めるように取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、大変お世話になりました佐賀県バスケットボール協会の皆様、そして今回の派遣にご配慮いただきました原田審判長をはじめ鹿児島県バスケットボール協会審判委員会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。